

京都市京セラ美術館 特別展「日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970」関連企画

77
年
後
の

リフレクション

KYOTO
2026

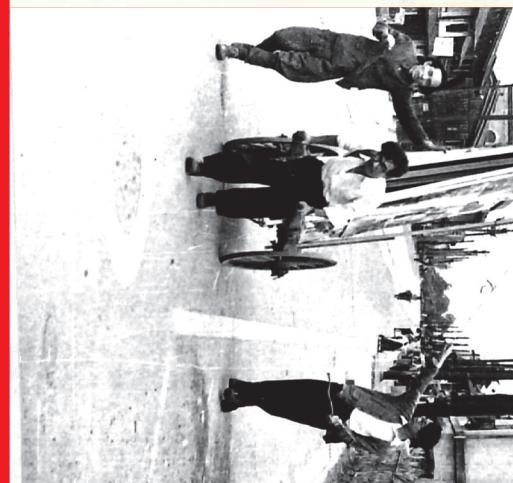
20 2月6日 | 金 | ↗ 5月6日 | 水・休 |

時 間 12:00-19:00 *会期中、金土日および、5月4日・5日・6日のみフルオープン

それ以外の日程は、資料パネル展示のみご覧いただけます。

会 場 藤井大丸 7gallery(京都府京都市下京区寺町通四条下ル貞安前之町605 7階)

観覧料 無料



【共同ディレクション】

小金沢智(キュレーター／東北芸術工科大学芸術学部美術科日本画コース准教授)

山本雄教(美術作家／京都芸術大学通信教育部日本画コース専任講師)

【資料展示】

森光彦(京都市京セラ美術館学芸員／「日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970」担当学芸員)

【主催】 株式会社藤井大丸

【企画協力】 京都市、関西テレビ放送、京都新聞

 FUJII DAIMARU

【参加作家／展示スケジュール】

※本展では、8名の作家がリレー形式で展示を行います。

●山本雄教(美術作家)

2月6日[金]-8日[日]、2月13日[金]-15日[日]

●服部しほり(日本画家)

2月20日[金]-22日[日]、2月27日[金]-3月1日[日]

●ペリー・マキコ(美術作家)

3月6日[金]-8日[日]

●松下みどり(画家)

3月13日[金]-15日[日]、3月20日[金・祝]-22日[日]

●タナカリナ(画家)

3月27日[金]-29日[日]、4月3日[金]-5日[日]

●藤野裕美子(美術作家)

4月10日[金]-12日[日]、4月17日[金]-19日[日]

●松岡勇樹(日本画家)

4月24日[金]-26日[日]

●三瀬夏之介(日本画家)

5月1日[金]-3日[日]

●クロージングセッション(上記作家が全員参加)

5月4日[月・祝]-6日[水・休]

パンリアル美術協会が夢見た未来でしょうか？

「封建的ギルド機構」は「打破」され、「自由な芸術」が生まれる



ここに何枚かの写真がある。1949(昭和24)年5月、藤井大丸で開催された第1回パンリアル展の様子を写したもので、特に目をひく写真が2枚。1枚は会場風景で、日本画家の福田平八郎がじっと作品を凝視しているもの。1892(明治25)年2月生まれの福田は当時57歳。京都市立絵画専門学校出身で、教授も務めた。この頃は既に辞していたが、パンリアル美術協会は同校出身者を中心に結成されたから、福田にとっては後輩に当たる。世代として二回り以上違う年少の作家たちの展覧会を、当時帝国芸術院会員の福田はどう感じただろうか。もう1枚は搬出風景で、リヤカーに巨大な作品を載せたパンリアル美術協会の大野値嵩、山崎隆、清水純一を写すもの。場所は東大路通。荷を引く山崎の顔は苦しそうだが、私はこの写真に、志を同じくする仲間たちと行う展覧会のこの上ない楽しさ、満剌さを見る。

さて、それから77年後の2026(令和8)年2月。京都市京セラ美術館を会場に、創造美術、パンリアル美術協会、ケラ美術協会という公募団体を中心にその前衛性=アヴァンギャルドを展覧する「日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970」が開催される。そして、その関連企画として行われるのが、同展のタイトルをもじった本展「77年後のリフレクション KYOTO 2026」である。メンバーは、世代の異なる京都ゆかりの作家8名、そして東北在住のキュレーター1名の合計9名。

77年が経ち、日本画をめぐる状況は大きく変わった。作家は公募団体に所属せずとも個として作品を発表できる環境が整い、例えば1990年代から2000年代、「新しい日本画」とも評された作家たちを盛んに取り上げたのは、美術館の企画展や所属団体不問のコンクールだった。その意味では、パンリアル美術協会がその宣言文で標榜した、「封建的ギルド機構」の打破と「自由な芸術」の実現は叶ったと言えるかもしれない。けれども、「パンリアル美術宣言」で彼らが意図的に「日本画」という言葉を除外し、その別称として用いたはずの「膠彩芸術」という言葉は一般化していない。その点で、日本画は今なお、国号絵画として日本の歴史・伝統との強固な結びつきを期待されている絵画ジャンルである。時節を経て、変わったもの、変わらないものがある。

この認識に立ち、日本画に対する個別の動機を持つ私たち9名は、本企画を一時的に共同する。今、私たちは見つめるべき現実がそれだけで存在するだろう。その上で、私たちは個々の立場から、「パン」(汎=すべて)「リアル」(現実)を主張したパンリアル美術協会の仕事を見つめ、応答を試みたい。そう、まず8人が個別で会期中ギャラリーを使用し、個展や公開制作を実施。そして最後、「クロージングセッション」として集団での展示を試みる。そこで見出されるのは、日本画の持つ絵画性か、主題か、素材・画材か、歴史・制度か、それらの複合したものか、はたまたまったく新しいものか？ 場所は、日本の近代化の草創期——1870(明治3)年10月に創業し、1949年5月、パンリアル美術協会が第1回展を開催し、2026(令和8)年5月6日をもって全面改装に入る、藤井大丸。本展は、第1回パンリアル展に対する、77年を経た今日からの反響=リフレクションである。

小金沢智(キュレーター／東北芸術工科大学准教授)

関連トークイベント

個であること、共にあること

——「77年後のリフレクション KYOTO 2026」の取り組み

日 時：2026年4月29日[水・祝] 14:00-16:00(開場:13:30)

場 所：京都市京セラ美術館 講演室(本館地下1階)

〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町124

出 演：小金沢智、タナカリナ、服部しほり、藤野裕美子、ベリーマキコ

松岡勇樹、松下みどり、三瀬夏之介、山本雄教(五十音順)

ゲスト：森光彦(京都市京セラ美術館学芸員)

料 金：無料

定 員：100名(申込不要、先着順)

詳細は京都市京セラ美術館HPをご確認ください

特別展

「日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970」

会 期：2026年2月7日[土]-5月6日[水・休]※会期中、一部展示替えあり

時 間：10:00-18:00(最終入場は17:30まで)

会 場：京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ

〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町124

休 館 日：月曜日(祝・休日の場合は開館)

観 覧 料：一般1,800円、他

主 催：京都市、関西テレビ放送、京都新聞

協 賛：株式会社長谷ビル

特別協力：株式会社藤井大丸

協 力：京都薬品工業株式会社



来場者全員プレゼント！ 藤井大丸500円お買物券

京都市京セラ美術館で開催中の特別展「日本画アヴァンギャルド KYOTO 1948-1970」では、ご来場いただいた方全員に、藤井大丸で利用できる500円分のお買物券をプレゼント！(一部対象外の店舗がございます。)「77年後のリフレクション KYOTO 2026」展をご鑑賞のあとは、ぜひ藤井大丸でお買物をお楽しみください。

アクセス 藤井大丸 7gallery

〒606-8031 京都府京都市下京区寺町通四条下ル貞安前之町605 7階
阪急「京都河原町駅」出口10から徒歩3分

展覧会に関するお問い合わせ先 E-mail:reflection77kyoto@gmail.com

※本展に関する情報は、予告なく変更になる場合がございます。

「77年後のリフレクション KYOTO 2026」